

✠058 愛 agápē

キリスト教の最大のテーマである愛は、アガペー（神の人間に対する「愛」）である。そのアガペーとは・・・。

聖書では、愛とは神様の本質であり、見返りを求めずは無償で相手に尽くすものであり、忍耐、謙遜、信仰を伴うものであることが明確に記されている。

ギリシア語には「愛」を表現する言葉が次の四種類ある。

- ・ **アガペー** αγάπη agápē : 真の愛、無条件の愛(古代ギリシアではあるものを他よりも優遇する愛) στοργή storgē
- ・ **ストルゲー** : 家族愛、親子愛
- ・ **フィリア** φιλία philía : 隣人愛、連帯感の愛(古代ギリシアでは友人の友人に対する愛)
- ・ **エロース** ἐρως érōs : 性愛、本能・肉体的な愛(古代ギリシアでは自己を充実させる愛)

「神は愛です」(ヨハネの手紙一 4:8b)

神の本質は愛であり、特にイエス・キリストを通して愛が示された。

「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。(マタイ 5:43, 44)

自分を中傷し、敵対する相手であれ、神の子として、また、罪を贖われた者として、隣人として赦し、愛し合うべきであるという、人類愛の宣言がある。

パウロは、「(それゆえ、) 信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」(1コリント 13:13)、また、「たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。」(同 13:2)、「愛を追い求めなさい。霊的な賜物、特に預言するための賜物を熱心に求めなさい。」(同 14:1)と記し、すべてにおける愛の優位性を訴えた。

また、パウロは「わたしたちはこの方により、その御名を広めてすべての異邦人を信仰による従順へと導くために、恵みを受けて使徒とされました。」(ローマ 1:5)と記し、神の永続的な無償の愛を「恵み」と表した。これは後に“gratia”(恩寵、イエス・キリストにおいて啓示されたすべての人間に対する神の愛と慈悲)とラテン語※1に訳されて、キリスト教神学の原理的概念となった。

※1：ラテン語

元々は古代ローマ共和国の公用語として広く普及した古代言語。後、カトリック教会の公用語としてヨーロッパ各地へ広まり、祭祀宗教用語として使用された。ルネサンスを迎えると、自然科学・人文科学・哲学のための知識階級の言語となった。さらに、文献言語や学術用語として近世のヨーロッパまで発展・存続した。現在もラテン語はバチカンの公用語であるが、日常ではほとんど使われなくなった。しかし、医学・数学・哲学などの専門知識分野では、世界共通の学名としてラテン語名を付けて公表する伝統がある。